

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

## Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

### 赤ちゃんにきびしい？やさしい？

フリーのコピーライターが「赤ちゃんにきびしい国で、赤ちゃんが増えるはずがない」というタイトルでたまたま書いたブログ記事に17万の“いいね！”がつき、昨年末同じタイトルで本が出版されました。子どもに関する職業でもないこの方がこのような記事をかくきっかけになったのは、あの「ベビーカー論争」だったのだそうです。

17万のいいね！とともに送られたメッセージの主はほとんどが女性で「(赤ちゃんを生んでよかったんだと)救われた」「(子育てを頑張ろうと)励みになった」というもので、中には「涙が出た」というもの、さらには「(こんな記事を)男の人が書いている！」というものもあったそうです。もちろん賛同意見だけでなく厳しい反対意見も多く寄せられ、そもそも赤ちゃんを公共の乗り物に乗せることの危険を説く人、ベビーカーをたたまないでスマホをいじっているのはどう考へてもおかしいだろうという指摘など、さまざま。でも、それでもあえて許容してあげられないか、というのが著者の意見。

さて、この方がこの記事をきっかけに子育てのことをリポートするようになりわかったことは、日本は欧米諸国に比べて赤ちゃんにきびしい国だということでした。多くの母親は、わけのわからない赤ちゃんを相手に一人で奮闘していて、どうやっても泣き止まない赤ん坊に戸惑い「私が悪いのでは？」と自分を責め葛藤しながら終わりが見えない子育てに向かっています。その部分を察したら、公共の乗り物で泣いている赤ちゃんがいても、冷ややかに見るのではなく笑顔をおくれるかもしれない、そんな風に思います。著者は、子育て経験の有無、結婚しているかいないか、小さな子どもが思い通りにいかないことを知っているか知らないかで、赤ちゃんの泣き声を不快に思うかどうかが変わってくるのだとおっしゃっています。

今の時代の子育てをどう受け止めるかはそれです。でも、社会全体が子育て中の親や子どもたちに厳しければ、そのうち子どもを産むことをしなくなるでしょう。子どもや子育て家庭の立場に立って社会に言葉を発する人間もいなければ…。ふじみ子育てネットワークの役割はそこにあると考えています。



## Stay Smile 農業の未来へ向かって～新たな力～

町新規就農支援事業

### ◆樋口晴則さん(南原山)

農業には全く縁がありませんでしたが、結婚を通じて家内の出身地である富士見町を繰り返し訪れる中で、生命を育む農業に魅力を感じるようになり、東京でのサラリーマン生活から心機一転、有機・無農薬栽培を志しました。出身は兵庫県です。

“無農薬で野菜を作りたい”とは思ったものの、どこから手を付けていいかわからない時に、新規就農支援事業を通して町内で無農薬野菜を栽培している農家を紹介して頂き、就農することができました。

1年目、全くの素人を懇切丁寧に指導して頂き、2年目には見よう見まねで栽培を始めました。そして、今年で6年目。南原山の自宅近くの畑を中心に、年間約50種類の野菜を栽培し、少しずつですが、栽培面積も拡大しています。現在は、全国への戸別宅配を中心に直売所やスーパー、町内の保育園、東京の有機野菜取扱店など、販売先も徐々に増やしています。

南原山は戦後、満州から引き揚げてきた方々が苦労しながら原野を開拓し、入植された土地です。先輩方の労苦を思い、感謝しつつこの土地を守っていきたいと感じています。

この数年間、多くの方々の助けを受けてここまでやってくることができました。また、数年後には私も里親になれるように努力し、新規就農者を受け入れたり、都会の子供たちを受け入れて、農業体験を提供したり、農業を志す若者がどんどん増えていくような場を作っていくみたいです。



# Stay Smile “原始芸術”の頂点と捻つただけの餅～考古遺物へのまなざし

昭和 33 年の井戸尻遺跡の発掘をきっかけに、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

井戸尻考古館 ☎64-2044

## 曾利遺跡①(昭和35・36年)

昭和 33 年の井戸尻遺跡発掘をきっかけに結成された井戸尻遺跡保存会は、35・36 年に井戸尻遺跡の隣の曾利遺跡を発掘します。17 軒の住居址のうち 4 号住居址ではとりわけ見事な造形の土器が 4400 年の眠りから目覚めました。7 点のセットは長野県宝に指定されますが、中でも水煙渦巻文深鉢は国内外の展示会に出陳されたほか、10 円はがきの料額印面の意匠に選ばれるなど、原始芸術の頂点といっても過言ではありません。

この発掘では、もうひとつ特筆すべき発見がありました。5 号住居址から出土したコッペパンのような形の炭化食品でパン状炭化物といいますが、このほかに捏ねて捻った餅のような炭化物もありました。映画監督の宮崎駿さんは、そこに暖かな家族の姿を見たようです。「…自分の子どもにですね、小さいものを作って、これは楽しかろうと、ひょっとひねってね。」

誰もが目を奪われる見事な造形も、暮らしの中の親子の語らいも、かけがえのない歴史の一コマです。

参考：甦る高原の縄文王国（講演録集）2004 井戸尻考古館編  
写真：曾利 4 号住居址の写真は武藤盈氏の撮影



▲曾利4号住居址(復元した土器を並べて撮影)



▲捻り餅状炭化物

# Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ 富士見町読書活動推進委員会 事務局 ☎62-7930

## 富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

### 【保育園の活動】

- \*毎日の読み聞かせ
- \*自由にのんびり楽しめる絵本コーナー
- \*家庭への絵本の貸し出し など

各園の活動はさまざまです。それぞれの園で子どもたちの育ちを願い、それぞれの発達段階に応じた豊かな楽しい読書体験を積み重ねられるような環境づくりをしています。

### ～今回は本郷保育園の活動のご紹介をします～

本郷保育園では、各保育室に年齢に合わせた絵本が置いてあります。また、玄関横には、ささやかではありますが、絵本コーナーがあり 700 冊ほどの絵本・図鑑などがあり、子ども達が自由に来て楽しんでいます。毎日の読み聞かせの他に、毎週金曜日には絵本の貸し出しをして、子どもの選んだお気に入りの 1 冊をお家の人と楽しめるようにしています。金曜日の降園時には「今日何の絵本借りてきた？」と親子で話す姿も見られ、とてもほほえましく思います。これからも子ども達と絵本の良い出会いの場となるように、保育園の読書活動を進めていきたいと思っています。



▲クラスの読み聞かせ

毎日、季節や年齢・興味に合わせた絵本を選んでいます。子ども達が自分の読みほし絵本を選ぶ時もあります。



▲役場のおじさんの紙芝居

『おおきくなあれ』『あんもちみつ』を読んでもらいました。『ケーキ、おいしかった』『ぶたがおおきくなつて、びっくりしたあ～』『どろぼうがこわかった！』『役場のおじさんまた来てほしい』などなど、子ども達はおはなしの世界に夢中でした。

※次回は富士見保育園の読書活動について紹介します。